

# 質問に お答えします

## 「新型コロナウイルス感染症 予防のためのマスク」について

**問** 仕事では、アーク溶接作業を行なうことがありその際は、簡易防じんマスクを着けております。

**答** 呼吸用保護具の選択、使用及び保守管理の方法については、労働安全衛生法令及び通達により示されています。使い捨て式防じんマスクも厚生労働大臣の定める規格があり、登録型式検定機関の行う型式検定に合格したものを使用しなければなりません。また、「防じんマスクの選択、使用等について」は平成17年2月7日付けの通達で事業者が留意すべき事項が具体的に示されており取り組まれてきました。

新型コロナウイルスの、感染防止のために政府が示した「新しい生活様式」でも、マスクの着用や手洗いの徹底等を求めています。

マスクについては、より高い密閉性が得られるN95マスクや使い捨て式防じんマスクではDS2と呼ばれるものがありますが、不適切に着用すると期待される効果は得られないので、日常生活に

「新型インフルエンザ流行時の日常生活におけるマスク使用の考え方」が新型インフルエンザ専門家会議で出され（平成20年9月22日）その資料が厚生労働省のホームページに掲載されていますので参考にその一部を引用します。

【不織布製マスクの使用  
方法】  
(1) 症状のある人が、咳・くしゃみによる飛沫の飛散を防ぐために不織布製マスクを積極的に着用することが推奨される（咳エチケット）。

(2) 健康な人が不織布製マスクを着用することにより、机、ドアノブ、スイッチなどに付着したウイルスが手を介して口や鼻に直接触れることを防ぐことから、ある程度は接触感染を減らすことが期待される。また、環境中のウイルスを含んだ飛沫は不織布製マスクのフィルターにある程度は捕捉される。しかしながら、感染していない健康な人が、不織布製マスクを着用することで飛沫を完全に吸い込まないようにすることは出来ない。よって、咳や発熱等の症状のある人に近寄らない（2メートル以内に近づかない）、流行時には人混みの多い場所に行かない、

手指を清潔に保つ、といった感染予防策を優先して実施することが推奨される。やむを得ず、新型インフルエンザ流行時に外出をして人混みに入る可能性がある場合には、ある程度の飛沫等は捕捉されるため、不織布製マスクを着用することは一つの防御策と考えられる。ただし、人混みに入る時は極力短時間にする。

(3) 不織布製マスクは、原則使い捨て（一日一枚程度）とする。

ところで、環境省・厚生労働省は「令和2年度の熱中症予防行動」として「夏の気温・湿度が高い中でマスクを着用すると、熱中症のリスクが高くなるおそれがあります。屋外で人と十分な距離（2m以上）が確保できる場合には、熱中症のリスクを考慮しマスクを外す」よう促しています（オノ労働衛生コンサルタント事務所所長 尾野吉則）